

会議名	港区国際防災ボランティア研修及び災害時対応訓練支援業務委託 第3回事業候補者選考委員会
開催日時	令和2年2月14日（金曜日）午前9時から11時まで
開催場所	区役所9階 915会議室
委員	明治学院大学国際平和研究所研究員 荻村 哲朗（委員長） 港区産業・地域振興支援部国際化・文化芸術担当課長 大久保 明子（副委員長） 麻布地区総合支所協働推進課長 鈴木 健（委員） 産業・地域振興支援部観光政策担当課長 相川 留美子（委員） 防災危機管理室防災課長 白井 隆司（委員）
事務局	地域振興課国際化推進係
会議次第	1 開会 2 二次審査（プレゼンテーション・質疑応答）について 3 選考結果について 4 その他 5 閉会
使用資料	[タブレット使用] 資料1 港区国際防災ボランティア研修及び災害時対応訓練支援業務委託事業候補者選考 二次審査について 資料2 港区国際防災ボランティア研修及び災害時対応訓練支援業務委託事業候補者二次 審査採点票 資料3 第3回港区国際防災ボランティア研修及び災害時対応訓練支援業務委託事業候補 者選考委員会想定質問 参考資料1 港区国際防災ボランティア研修及び災害時対応訓練支援業務委託事業候補者 選考一次審査結果表 参考資料2 第2回港区国際防災ボランティア研修及び災害時対応訓練支援業務委託事業 候補者選考委員会議録
会議の内容	
委員長	【1 開会】 （委員長より開会の挨拶） ～詳細省略～
事務局	【2 二次審査（プレゼンテーション・質疑応答）について】 （事務局より資料1～3について説明）～詳細省略～
A委員	それでは二次審査を開始する。
事務局	～事業候補者A 入室の誘導～ <事業候補者A プレゼンテーション> ～詳細省略～

<p>B 委員</p>	<p><事業候補者 A 質疑応答></p> <p>外国人観光客を対象にした事業を主に担当されていると思うが、本業務は港区在住外国人を対象に通訳等を行うボランティアを育成する事業である。</p> <p>外国人観光客と在住外国人の違いをどのように考えているか。</p>
<p>事業候補者 A</p>	<p>一番違うのは土地勘である。災害時の外国人にとって情報が不足することが、最大の課題なので、正確な情報提供を行っていくことが重要だと考える。</p>
<p>C 委員</p>	<p>港区の場合、「やさしい日本語」を推進しているが、知っているか。</p> <p>また、国際防災ボランティアを育成したうえで、地域の防災住民組織など地域での協働関係を築くことが重要。その際、地域の防災住民組織の中に国際防災ボランティアがどのような形で入っていくか現時点でイメージがあれば教えてほしい。</p>
<p>事業候補者 A</p>	<p>まず、「やさしい日本語」に関しては、観光ボランティア育成講座を受託しており、そのスキルアップ講座の中で一つの科目として位置付けている。その時の講師を今回の研修にも予定しており、「やさしい日本語」の重要性は認識している。</p> <p>また、災害時の国際防災ボランティアの主な業務は災害情報の翻訳、避難所での通訳対応だと考えている。</p>
<p>D 委員</p>	<p>研修について、最初は多くの方に参加いただけると思うが、途中からモチベーションが下がり参加率も低くなる傾向がある。モチベーション維持のために何か対策は考えているか。</p> <p>またスキルアップ研修について、多言語音声翻訳システムを活用するとあるが、発災時には通信制限がかかる恐れもある。このような状況に陥った場合の対策は考えているか。</p>
<p>事業候補者 A</p>	<p>モチベーション維持について、全8回の研修のうち5回以上参加された方に、指差しでコミュニケーションが取れる「双方向コミュニケーションシート」をプレゼントする。これは、英語・中国語・ハングルのものがある。ただ、スタッフと受講者の人間関係の構築も重要である。</p> <p>また、多言語音声翻訳システムに通信制限がかかってしまった際は、先程申し上げた「双方向コミュニケーションシート」を活用することを想定している。多言語音声翻訳システムに比べれば質は落ちるが、アナログのものなので有効であると考えます。</p>
<p>E 委員</p>	<p>多言語音声翻訳システムについて、研修中での活用の仕方を具体的に教えてほしい。</p>
<p>事業候補者 A</p>	<p>多言語音声翻訳システムの使い方がわからない方が多いので、まずは使い方をマスターしていただく。その後災害時対応訓練でのロールプレイ方式で実践的に使用していただく予定。</p> <p>もちろん各研修の科目について学んでいただくことが大事なので、“あったほうが便利</p>

A 委員	<p>だな”という位置付けで提案している。あくまでボランティアが災害時に主体的に動けるように育成することを最優先に考えている。</p> <p>ボランティア育成の中で語学の他に特に大事だと思っていることを教えてほしい。</p>
事業候補者 A	<p>「やさしい日本語」の使い方である。港区の在住外国人は日本語を理解している方が多いと考える。その中で外国人に対して「やさしい日本語」を使うテクニックも学んでもらえればと思っている。</p> <p>また、災害時に在住外国人の方に安心して過ごしてもらえるかが重要なので、語学だけでなく人としてのコミュニケーション構築のため、通訳案内士も講師として候補に挙げている。それがおもてなしや心を通わせることに繋がると考えている。語学の強化であれば、多言語音声翻訳システムだけを使えばいいが、災害時にどうすれば外国人に安心してもらえるかについても伝えていきたい。</p> <p>～質疑応答終了～ (事業候補者 A 退出)</p> <p>～各委員 事業候補者 A 採点～</p>
事務局	<p>～事業候補者 B 入室の誘導～</p> <p><事業候補者 B プレゼンテーション> ～詳細省略～</p>
B 委員	<p><事業候補者 B 質疑応答></p> <p>自衛隊でのキャリア教育、日本語教師育成講座をメインで行っていると思うが、今回の事業は外国人向けの防災ということで、今まで担当した事業とジャンルが違うと思う。外国人が被災した時に最も大事なことは何であるか教えてほしい。</p> <p>また、自衛隊は災害時に救助活動をしていると思うが、外国人向けの対応はどのように活かせるか教えてほしい。</p>
事業候補者 B	<p>外国人が被災した際の大事なことについて、過去に天安門事件に遭遇した経験がある。災害とは別の話になるが、外国人として非常に焦った。言語の勉強はしているが、いざという時に言葉がでてこない、情報が錯綜しているといった体験をした。この時に、大丈夫ですか？安心してください。など心を落ち着かせてくれるボランティアの方がいればいいなと思った。</p> <p>港区国際防災ボランティアの育成の中で、そのような対応ができるようなボランティアを増やしていきたいと考えている。</p> <p>また、自衛隊活動の活かし方について、自衛隊の中には防災士の人も多いので、人のために何かしたいと思っている自衛隊の心情をもとに寄り添っていきたい。</p>

C 委員	<p>地元企業で港区の地域特性をよく知っているかと思うが、港区国際防災ボランティア事業を港区の地域防災活動にどのように浸透させていくかアイデアがあれば教えてほしい。</p>
事業候補者 B	<p>我々の会社がある高輪地区は、港区の中では外国人居住率は高くないが、各地区総合支所と協力して何かできないかと考えている。</p> <p>また、外国人ボランティアをどれだけ巻き込むことができるかが重要なポイントである。なぜなら、外国人は外国人同士でコミュニティを作っているケースが多く、横の繋がりが日本人よりあるからである。</p>
D 委員	<p>防災目覚ましレターについて、具体的に教えてほしい。</p>
事業候補者 B	<p>定年退職3年前の自衛官への教育の中で「再就職目覚ましレター」というメールマガジンを月1回出している。これは、費用を多くかけず、効率よくモチベーションを維持してもらうために何かできないかと考えた際に発案した。</p> <p>「防災目覚ましレター」についても、研修だけでなくボランティア活動へのモチベーションを維持してもらうために提案をした。</p>
E 委員	<p>ボランティアの方々の活動意欲は必ずしも同じではないと思うが、配慮について何か考えていれば教えてほしい。</p> <p>また、外国人ボランティアを巻き込むアイデアについても教えてほしい。</p>
事業候補者 B	<p>ボランティアへの配慮について、研修に入る前のボランティア同士の信頼構築のために「港区国際防災ボランティア・ワールドカフェ」を行いたいと思っている。テーマを決めて、リラックスした雰囲気の中で意見を伝え合う機会を設けることで、ボランティアの活動意欲を向上させたい。</p> <p>またボランティアの巻き込みについて、特に外国人に関しては、災害を経験したことがない人が多いので、まずは防災について知っていただくことが必要だと考える。</p>
A 委員	<p>ボランティアだからこそできることは何だと思うか。</p>
事業候補者 B	<p>活躍したいと思いき集まる人々が結束すると、何でもできると思う。</p>
B 委員	<p>提案書の中で個人情報保護に関する記載がなかったが。</p>
事業候補者 B	<p>個人情報保護に関しての記載は抜けていた。ただ、他の事業でも常に個人情報を管理しており、専門家に依頼している。</p>
B 委員	<p>規定はないのか。</p>

事業候補者 B	<p>規定はある。官公庁、自衛隊以外にも省庁の入札案件があり、その際にも提出している。</p> <p>～質疑応答終了～ (事業候補者 B 退出)</p> <p>～各委員 事業候補者 B 採点～</p>
<p>事務局</p> <p>A 委員</p> <p>B 委員</p> <p>C 委員</p> <p>D 委員</p> <p>E 委員</p> <p>A 委員</p>	<p>【3 選考結果について】</p> <p>二次審査の合計は、500 点満点のうち事業候補者 A が 352 点 事業候補者 B が 374 点。一次審査との合計は事業候補者 A が 1033 点、事業候補者 B が 978 点。第 1 位が事業候補者 A、第 2 位が事業候補者 B となった。</p> <p>この結果を踏まえ、各委員から講評をいただきたい。</p> <p>事業候補者 A については、観光の分野だが自治体での実績が豊富であり、事業実現性を考えると手堅い印象をもった。また、観光との違い、地域との連携については内容が薄いように思えたが、スタッフとボランティア、ボランティアと被災者との人間関係を重要視している話を聞いたのは良かった。</p> <p>事業候補者 B については、誠実さがあり、オリジナリティもあって良かったが、おもしろい取組ができるような期待を持ちつつも実現性について不安が残った。</p> <p>事業候補者 A については、説得力のあるプレゼンテーション・質疑応答の対応だった。事業候補者 B については、質疑応答の際、ふわっとした回答だった。総合的な評価として、事業候補者 A の方を高い評価にした。</p> <p>事業候補者 A については、質の高いプレゼンテーションであった。ただ、多言語音声翻訳システムについては、研修の中に取り入れる必要が本当にあるのかと思った。また、一流の講師を用意しているので、一流のボランティアを育成できるという発言に対して少し疑問を感じた。</p> <p>事業候補者 B については、オリジナリティがあり、構想もしっかりしていたが、実現性に疑問を感じた。また、個人情報保護についても、専門家だけによる管理で本当に大丈夫なのかと不安が残った。</p> <p>事業候補者 A については、取組内容が明確で、プレゼンテーションもしっかりしており、安定感があった。</p> <p>事業候補者 B については、提案内容含め新しいことに挑戦する前向きな姿勢は評価したが、年間をとおした業務の遂行に少し不安を感じた。単発での研修等をお願いしてみたい。</p> <p>事業候補者 A については、語学に重点をおいている点が心配である。災害時に語学だけで</p>

<p>全委員</p> <p>事務局</p>	<p>サポートするのは難しい。ボランティアとしてできることをこれからさらに深掘りして行ってほしい。</p> <p>事業候補者 B については、これから経験を積んで育てて行ってほしいと思う。ネットワークも多くもっているので期待したい。</p> <p><u>集計結果及び各委員からの講評内容を総合的に踏まえ、最も点数の高かった事業候補者 A を事業候補者として決定して良いか。</u></p> <p>はい</p> <p>【4 その他】 （事務局より今後のスケジュール説明）～詳細省略～</p> <p>【5 閉会】 （委員長より閉会の挨拶）～詳細省略～</p>
-----------------------	---